

科目名	介護職員初任者研修
授業形態	講義・演習
開講時期	2年後期
時間数・単位	130時間・4単位

【学習目標】

- ①歯科医療において高齢者歯科や訪問歯科診療が多いため、高齢者に対する理解を深めるとともに介護の知識、技術を得習し高齢者への対応能力を養う
- ②介護や福祉に対する知識、心構え、職業倫理等を学ぶ
- ③基本介護技術演習において技術の基本を得習し要介護者の体験を通じて介護される側の理解を深める。更に訪問介護員の在り方や介護の在り方を学ぶ
- ④施設実習において講義と演習で学習した内容を現場実習で確認し、福祉について理解を深める

【授業計画】

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	職務の理解	多様なサービスの理解	介護保険サービス(居宅、施設)、介護保険外サービス
2		介護職の仕事内容や働く現場の理解	居宅・施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携
3-4	介護における尊厳の保持・自立支援	人権と尊厳を支える介護	①人権と尊厳の保持 ②ICF ③QOL ④ノーマライゼーション ⑤虐待防止・身体拘束禁止 ⑥個人の権利を守る制度の概要
5		自立に向けた介護	①自立支援 ②介護予防
6	介護の基本	介護職の役割、専門性と多職種との連携	①介護環境の特徴の理解 ②介護の専門性 ③介護に関わる職種
7		介護職の職業倫理	職業倫理(専門職の倫理の意義、介護の倫理、介護職としての社会的責任、プライバシーの保護・尊重)
7		介護における安全の確保とリスクマネジメント	①介護における安全の確保 ②事故防止、安全対策 ③感染対策
8	介護・福祉サービスの理解と医療との連携	介護職の安全	介護職の心身の健康管理(介護職の健康管理が介護の質に影響、ストレスマネジメント、腰痛の予防に関する知識、手洗い・うがいの励行、手洗いの基本、感染症対策)
9		介護保険制度	①介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ②仕組みの基礎的理解 ③制度を支える資源、組織・団体の機能と役割
10		医療との連携とリハビリテーション	医行為と介護、訪問看護、施設における看護と介護の役割・連携、リハビリテーションの理念
11	介護におけるコミュニケーション技術	障害者自立支援制度およびその他制度	①障害者福祉制度の理念 ②障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 ③個人の権利を守る制度の概要
12		介護におけるコミュニケーション	①介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ②コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ③利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ④利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際
13	老化の理解	介護におけるチームのコミュニケーション	①記録における情報の共有化 ②報告 ③コミュニケーションを促す環境
14		老化に伴うこととからだの変化と日常	①老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ②老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響
15	認知症の理解	高齢者と健康	①高齢者の疾病と生活上の留意点 ②高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点
16		認知症を取り巻く状況	認知症ケアの理念(パーソンセンタードケア、認知症ケアの視点)
16		医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理
17	障害の理解	認知症に伴うこととからだの変化と日常	①認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ②認知症の利用者への対応
17		家族への支援	認知症の受容過程での支援、介護負担の軽減(レスパイトケア)
17		障害の基礎的理解	①障害の概念とICF ②障害者福祉の基本理念
17	障害の理解	障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎知識	①身体障害 ②知的障害 ③精神障害(高次脳機能障害・発達障害を含む) ④その他の心身の機能障害
17		家族の心理、かかわり支援の理解	家族への支援(障害の理解・障害の受容支援、介護負担の軽減)

回	授業題目	授業内容	到達目標
18	介護の基本的な考え方	理論に基づく介護、法的根拠に基づく介護	<p>①介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる</p> <p>②尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する</p>
19	こころとからだのしくみと生活支援技術の基礎的理解	学習と記憶の基礎知識、感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、こころの持ち方が行動に与える影響、からだの状態がこころに与える影響	
20-21	介護に関するからだのしくみの基礎的理解	人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、中枢神経系と体性神経系に関する基礎知識、自律神経と内部器官に関する基礎知識、こころとからだを一体的に捉える、利用者の様子の普段との違いに気づく視点	
22-23	生活と家事	家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援	
24-25	快適な居住環境整備と介護	快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法	
26-27	整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	整容に関する基礎知識、整容の支援技術	
28-30	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援	
31	食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援	
32-34	入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法	
35-36	排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法	
37	睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法	
38	死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護	終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うこころの理解、苦痛の少ない死への支援	
39	こころとからだのしくみと生活支援技術の基礎的理解	介護過程の目的・意義・展開、介護過程とチームアプローチ	
(39) 40-42	総合生活支援技術演習	生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得	
43	振り返り	研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点	
	就業への備えと研修終了後における継続的な研修	継続的に学ぶべきこと、研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例を紹介	

【評価方法】

筆記試験

【参考図書等】

介護職員初任者研修課程テキスト1「介護・福祉サービスの理解(第4版)」(日本医療企画)

介護職員初任者研修課程テキスト2「コミュニケーション技術と老化・認知症・障害の理解(第4版)」(日本医療企画)

介護職員初任者研修課程テキスト3「こころとからだのしくみと生活支援技術(第4版)」(日本医療企画)

【実務経験】

科目名	行動科学
授業形態	講義
開講時期	2年後期・3年前期
時間数・単位	15時間・1単位
授業担当者	吉嶺 真一郎

【学習目標】

歯科医療の本質と患者の心理を学ぶ

【授業計画】

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	歯科治療全般	歯科衛生士から見た歯科治療の本質	歯科治療とは何かを理解する
2	カリエス治療	カリエス治療と歯科衛生士との関わり	かかりつけ衛生士としてカリエスの患者への対応を理解する
3	歯内治療	根管治療と歯科衛生士との関わり	根管治療を理解し、患者に適切な対応する能力を身につける
4	歯周治療	歯周治療と歯科衛生士との関わり	歯周治療を理解し、患者に適切な対応する能力を身につける
5	小外科治療	外科治療と歯科衛生士との関わり	外科治療を理解し、患者に適切な対応する能力を身につける
6	インプラント治療	インプラント治療と歯科衛生士との関わり	インプラント治療を理解し、患者に適切な対応する能力を身につける
7	インプラント手術の実際	インプラント手術の実際と患者対応	インプラント手術時の患者対応を理解する
8	外科手術の実際	外科手術の実際と患者対応	外科手術時の患者対応を理解する

【評価方法】

レポート

【参考図書等】

「患者を動かす 行動歯科学による歯科恐怖へのアプローチ」Ph.Weinstein他著(クインテッセンス出版)

【実務経験】

本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	音楽
授業形態	ピアノ伴奏によるボイストレーニング、合唱、一般教養
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	30時間・1単位
授業担当者	井谷 桃

【学習目標】

合唱活動や音楽鑑賞を通して音楽に親しみ、表現することの楽しさや芸術文化への理解を深める

【授業計画】

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	オリエンテーション・発声の基礎	授業の目的や進め方を説明する。呼吸法や姿勢など発声の基礎を学び、校歌をもちいて声を出す練習を行う	授業の目的を理解し、正しい姿勢や呼吸による発声の基礎を体験する
2	声と身体の関係	呼吸や姿勢、口腔の動きなど声と身体の関係について学ぶ。滑舌練習や発声練習を行い、声を使ったコミュニケーションの基礎を体験する	声と身体の関係について理解し、滑舌や発声の基礎を身につける
3	合唱活動①(ポピュラー曲)	ポピュラー曲「糸」を用いて二部合唱に取り組む。音取りを中心に合唱の基礎を学ぶ	合唱の基本的な歌い方を理解し、他者の声を聴きながら歌うことを体験する
4	合唱活動②・ミニ発表	合唱曲の練習を行い、小グループでの発表を行う。音楽活動を通して協力することや表現することの楽しさを体験する	協力して音楽活動を行うことの大切さを理解し、人前で表現する経験を得る
5	映画鑑賞(アマデウス)	映画「アマデウス」を鑑賞し、モーツァルトの音楽や作曲家の人生について理解を深める。音楽が人の感情に与える影響について考える	作曲家や音楽作品について理解を深め、芸術の魅力について考える
6	映画の考察/西洋音楽史	映画鑑賞の内容を振り返り、グループで意見交換を行う。映画を通して音楽の役割や芸術の価値について考える。西洋音楽史にも触れる	映画の内容を理解し、自分の考えをまとめ、他者の意見を聞くことができる。一般教養としての音楽史を理解する
7	前期のまとめ	前期の授業内容を振り返り、音楽活動や映画鑑賞を通して学んだことを整理する。音楽クイズや鑑賞活動をと押しして理解を深める	前期の学習内容を理解し、音楽の楽しさやコミュニケーションとの関係を理解する
8	後期オリエンテーション・発声復習	後期授業の内容を説明し、前期で学んだ発声や呼吸法を復習する。簡単な発声練習を行い、声を出すことに慣れる	後期授業の内容を理解し、発声の基礎を復習する
9	合唱活動③(You Raise Me Up)	ポピュラー曲「You Raise Me Up」を用いて二部合唱に取り組む。パート分けを行い、音取りを中心に練習する	合唱の基本を理解し、他者の声を聴きながら歌うことができる
10	映画鑑賞(グレイテスト・ショーマン)	映画「グレイテスト・ショーマン」を鑑賞し、音楽や舞台芸術が作品の中でどのように表現されているかを理解する。ミュージカル映画の特徴や音楽の役割について考える	ミュージカル映画における音楽の役割について理解する。音楽や舞台芸術の表現の魅力を理解する
11	映画の考察(グレイテスト・ショーマン)	映画の内容を振り返り、作品の中で音楽がどのように使われているかを考察する。印象に残った場面や楽曲について感想をまとめ、音楽の表現について理解を深める	映画作品の内容を理解し、自分の考えをまとめることができる。音楽が物語や感情に与える影響について考えることができる
12	舞台芸術と音楽	舞台芸術やミュージカルにおける音楽の役割について学ぶ。映画作品を参考にしながら舞台芸術における音楽表現の特長について理解を深める	舞台芸術における音楽の役割について理解する。音楽と舞台表現の関係について理解を深める
13	音楽鑑賞(さまざまな音楽)	クラシック、映画音楽、ポピュラー音楽など様々なジャンルの音楽を鑑賞する。音楽の特徴や表現の違いについて考え音楽の多様性を理解する	様々なジャンルの音楽に触れ、音楽表現の多様性を理解する。音楽を聴いて感じたことを言葉で表すことができる
14	音楽プレゼンテーション	自分の好きな音楽やアーティストについて調べ、簡単なプレゼンテーションを行う	音楽について調べ、自分の考えを人前で発表する経験を得る
15	後期まとめ・筆記試験	後期の授業内容を振り返り、音楽活動を通して学んだことを整理する。筆記試験を実施する	授業内容を振り返り、音楽の楽しさや役割について理解する

【評価方法】

出席・授業態度レポート提出、実技発表、筆記試験

【参考図書等】

配布物プリント(楽譜等)、CD、映画鑑賞

【実務経験】

科目名	体育
授業形態	講義・実技
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	40時間・1単位(1年次20時間、2年次10時間、3年次10時間)
授業担当者	畠中 和子

【学習目標】

自主的・積極的に運動習慣を身につける

【授業計画】

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	現状の自分の体の状態を知る	正しい姿勢の把握と体組成の測定→チェックシートの作成	正しい姿勢方法を把握し、運動の習慣化
2	体力作り運動①	ダイナミックストレッチ→有酸素運動→筋トレ→リラクゼーション	正しい体の動かし方でラクに動ける方法を習得する
3	体力作り運動②	ダイナミックストレッチ→有酸素運動→コアトレ→リラクゼーション	正しい体の動かし方でラクに動ける方法を習得する
4	季節に応じた運動方法①	手具を使ってスポーツ競技	運動で血液・リンパ液の流れを整える事を体感する
5	季節に応じた運動方法②	手具を使ってスポーツ競技	効果的な脂肪燃焼の実践
6	スポーツ競技①	手具を使ってスポーツ競技	運動の楽しさとチームワークの大切さを身につける
7	スポーツ競技②	各症状に対する運動方法・体幹とコア・筋肉の働きについて	運動の楽しさとチームワークの大切さを身につける
8	運動生理学	身体の冷え対策バージョン(サーキットトレーニング)	効果的な運動方法を理解し実践する
9	運動理論	確認テスト(筆記と3種目の実技)	運動と身体の仕組みについての習得
10	体力作り運動③	体組成の測定・セルフコンディショニングとレクリエーション	2年次へ繋ぐ・全員で楽しむ運動

【評価方法】

筆記と実技試験

【参考図書等】

「正しい体幹トレーニング」有吉与志恵著

【実務経験】

科目名	体育
授業形態	講義・運動
開講時期	2年前期
時間数・単位	40時間・1単位(1年次20時間、2年次10時間、3年次10時間)
授業担当者	畠中 和子

【学習目標】

安全な方法で体力作りをしよう

【授業計画】

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	健康作りの為の運動方法	ダイナミックストレッチ⇒有酸素運動⇒リラクゼーション	運動方法の把握
		体組成の測定⇒チェックシートの作成	1年時と比較
2	スポーツ競技①	手具を使ってスポーツ競技	球技大会を意識する
3	スポーツ競技②	手具を使ってスポーツ競技	テクニックの向上とチームワーク
4	健康作りと体力作り	コアトレとフットコンディショニング	疲労回復の方法
5	健康作りと体力作り	セルフコンディショニングとレクリエーション	運動の習慣化

【評価方法】

出席状況、受講態度で評価

【実務経験】

科目名	体育
授業形態	講義・運動
開講時期	3年前期
時間数・単位	40時間・1単位(1年次20時間、2年次10時間、3年次10時間)
授業担当者	畠中 和子

【学習目標】

健康管理の方法について学ぶ

【授業計画】

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	健康づくりの為の運動方法	体組成の測定・ダイナミックストレッチ・有酸素運動・リラクゼーション	運動習慣の見直し
2	スポーツ競技①	手具を使つてのスポーツ競技+コンディショニング①	運動の楽しさとチームワークの大切さを身につける
3	スポーツ競技②	手具を使つてのスポーツ競技+コンディショニング②	球技大会を意識したチームワークを培う
4	スポーツ競技③	手具を使つてのスポーツ競技+コンディショニング③	球技大会を意識したチームワークを培う
5	健康作りと体力作り	セルフコンディショニングとレクリエーション	1人でできる運動方法と全員で楽しむ運動

【評価方法】

出席状況、受講態度で評価

【実務経験】